

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる

本年もよろしくお願いいたします



西徳寺 (浮世写真家 喜千也様 撮影)

「住職就任祝賀会」 のお知らせ

去る令和3年5月、住職継
職奉告法要を勤めましたが、
コロナ禍であり、山崎住職よ
りご門徒の皆様への正式な
ご挨拶の場が作れておりま
せん。

つきましては、「住職就任
祝賀会」を令和7年6月1日
(日)に開催することとなりま
した。ご案内は改めてお送り
致します。

副住職 大橋 伊知郎

新年の挨拶

明けましておめでとうございます

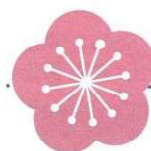
昨年は元日、能登半島大地震から始まりま
した。そして世界的な情勢も大きく変わり、
戦争も続いております。また、まれに見る物
価高、歯止めが掛からない少子高齢化など、
未来への不安が深まるばかりです。

反面、この不安こそが聞法の原動力と教え
られます。この只中でいかに未来を拓くかが課題
でありましょう。改めて本年も聞法道
場として聞き拓いて参りたいと
思います。本年もよろし
くお願い申し上げます。

西徳寺住職 山崎 哲



1月の山門の言葉



地獄は一定すみかぞかし (『歎異抄』第二章)



何年か前に子供の嫉の一環として地獄の絵本が流行した。「悪いことをしてはいけない」という戒めを子どもに視覚的に訴える方法として、テレビでも取り上げられていた。作家の芥川龍之介も代表作の「蜘蛛の糸」で、生前罪を犯した者が死後地獄に堕ちる様を描写している。血の池地獄、焦熱地獄、阿鼻地獄等いろいろあるが、どんな所で、どこにあるのだろうか。罪を犯したら地獄に堕ちるのだろうか。

SNSを見れば、誰かが誰かを批判し傷つける文章が溢れかえっている。世界を見れば、血で血を洗う争いが絶え間なく、多くの尊い命が奪われている。その裏側にあるのは、どこまでも自分中心にしか考えることができない私たちの在り方である。少しでも自分を差し置いて、他人のことを考えることができれば、争いは起こらないし、批判することもなくなるだろう。

人を傷つけることに痛みを感じない、無自覚。その生き方を親鸞聖人は地獄と明らかにされている。地獄を生き、地獄を死んでいくのが人間の生涯である。地獄はどこかにあるのではない。私たちの生きている、このただ中が地獄なのである。例外は一人もない、全ての人が地獄の住人である。

念仏は地獄から抜け出す教えではない。地獄が間違はなく私の住処であると感じかせ、そこしか生きる場所がないと決断せしめる(一定)教えである。そこに遭遇し、批判せずにはおれない、争わずにはおれないという共通の問題を抱え、共に地獄を作り出している輩であることを知らされるのである。

(蓮井 邦宗記)

顧問のカレンダーに聞く



いつでもどこでも
誰でもたすける行
それは念仏

The practice that enables anyone, at anytime, anywhere, to become liberated is none other than the Nembutsu.

いつでもどこでも誰でもたすける念仏、その裏に必ず橋渡しをする人がいることが肝心です。立場や肩書を超えて、念仏をよるこび、念仏の教えを聞き取った人々。先立つたすけられていった人々から手渡されて、初めて私に念仏が届けられるのです。

様々な物事を選ぶ私

たちですが、その思いを超えて共にすくわれていく。それが念仏の要であるのです。



うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舍願生偈)

今回は東京慈恵会医科大学付属病院で看護師をされている井坂美智子さんにお話を伺いました。私の友人の紹介で昨年からご縁をいただき、元々お寺に関心を持っておられたこともあり、お寺の行事にも参加していただいています。

◆お寺との出会い

就職する前から今まで、東京慈恵会医科大学付属病院の理念である、病気を診ずして病人を診よ、という言葉が大好きです。病気だけを診るのでなく、病気を抱えた患者の全てを受け入れて診ていこうという言葉に込められた意味を大切にしながら、日々勤務しています。

でもある時、余命三か月の入院患者さんに「死にたくない」と言われたんです。私は戸惑い、言葉で濁すばかりで、うまく返すことができませんでした。看護とは自分にとって何か、本当に患者さんと向き合えているのかと考え込み、もう一度自分が大切にしてきた病院の理念を見つめ直す時間になりました。死の現場に多く立ち会う中で自分自身、看護師として死生観を確立したいと思ったんです。この死生観がないと看護はできないと考え、そ

れを見出すため様々な分野できっかけとなりそうな場を探し求めました。

その時に出会ったのがお寺です。死の現場に多く立ち会う共通項に惹かれ、各所の寺院を巡り、座禅会、写経会、聞法会に参加するようになりました。私が求めたものに直接的に結びついたわけではありませんが、今でもお寺を巡る中で、死とは何だろうと考える時間をもらっています。

◆今の自分の仕事が好きです

仕事をされていて、やりがいについて考えることがありますけど、私の場合、看護が好きというのが一番ですし、モチベーションになっています。一度退職して専業主婦の期間があったのですが、その時は人や社会との接点がなくなり、心にぽっかり穴が開いた感じになりました。ただ、看護が好きということが、もう一度職に就く意欲を駆り立ててくれたんです。この看護に対する想いは、この先も変わらないと思います。

◆素晴らしさを伝えていきたい

病院で新人研修を担当しています。今の時代は少子高齢化社会やコロナ禍の影響で、看護師を目指す子が少なく

なっています。そんな中で私は、病院の理念、これまでの経験と合わせて、患者さんがこれまで生きてきた人生を大事にしながら、今後の人生をどういうものにしていくのかを大事にしてほしいと、研修生には伝えていきます。この先の世代に、看護の素晴らしさがもつともっと伝わっていったら嬉しいです。

お話を伺って、美智子さんの看護に対する想いから、生きる中でぶれない軸を持つことは、一つの強みだなと感じさせていただきました。

(聞き手 大谷 隆)



井坂美智子さんと聞き手



坊さんのツブヤITTERー



@フカケン

パソコン作曲を始めました。
歌と楽器を録音して、一つの曲にするという時間のかかる作業。友達の恋愛を題材にした曲が試行錯誤を経て完成したのですが、いざ出来たのはどこかもたつく、聞きづらい音源…。いわゆる“よくあるもの”を作るのすらこんなに難しいとは。

#もっと勉強 #地道な作業 #目が乾燥



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

兵庫県	常福寺 様
北海道	大光寺 様
滋賀県	佛厳寺 様
埼玉県	大西 康夫 様
足立区	小宮 久恵 様



クリスマスツリーと次女

内愚外賢

～賢者の信を聞きて、
愚禿が心を顕す～

日本人は、正月は神社へ初詣、葬儀や法事はお寺、クリスマスはキリストの誕生日を祝うという柔らかな宗教観を持ち合わせています。日常は個々別々の日常を送っている私たちですが、そこに共通するものを見出すのが、宗教の役割の1つだと思います。

どんな人とも新年を迎えられるよこびを共感できる、そして大切な人を無くした悲しみも、一堂に会した儀式で共感できる。苦楽を共感できる時や場所、そして共通する教えを、昔から大事にされてきたのでしょう。

今年も皆さまと笑顔でお会いできることを願っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
(編集長 仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。